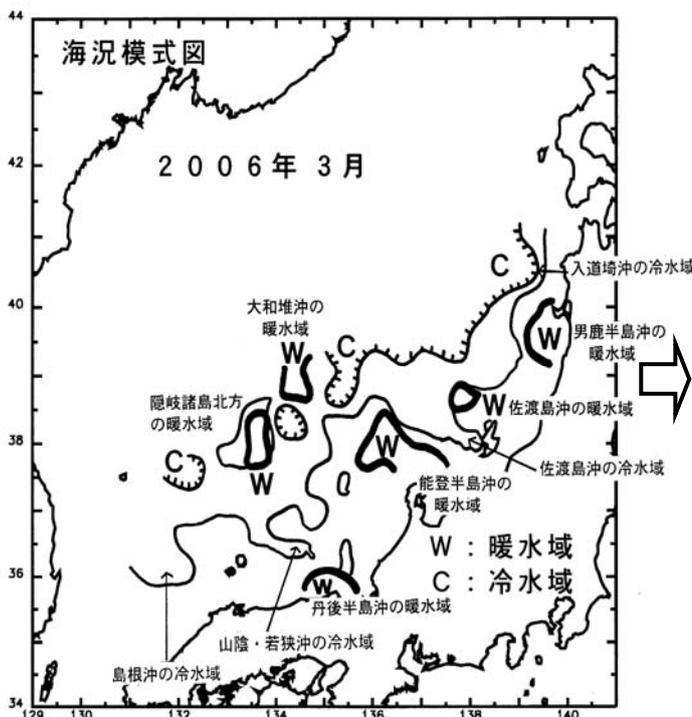


## 平成 18 年度第 1 回日本海海況予報

一別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター  
日本海区水産研究所がとりまとめた結果一

### 今後の見通し (2006年4月~6月)

対馬暖流域の表面水温は、“平年並み” ( $\pm 0.5^{\circ}\text{C}$  程度) で経過する  
対馬暖流域の 50m 深水温は、西部及び北部とも“平年並み” ( $\pm 0.5^{\circ}\text{C}$  程度)  
で経過する



### 2006年4月~6月の海況

- 隠岐諸島北方及び大和堆沖の暖水域は、一つにまとまって停滞する
- 丹後半島沖の暖水域は、北東に移動した後、能登半島沖の暖水域と一つにまとまって停滞する
- 佐渡島沖の暖水域は、北東に移動する
- 男鹿半島沖の暖水域は、北上した後消滅する
- 島根沖、佐渡島沖及び入道埼沖の冷水域の張り出しは、平年並み
- 山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、やや強い

### 問い合わせ先

1. 本予報は水産庁のホームページ (<http://www.jfa.maff.go.jp/>)、水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査推進委託事業のホームページ (<http://abchan.job.affrc.go.jp/>)、及び日本海区水産研究所のホームページ (<http://www.jsnf.affrc.go.jp/>) に掲載されます。
2. 本予報の内容等に関する問い合わせ先は以下の通りです。  
水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班 担当：青木、笠原、田中 (博)、佐藤  
〒100-8950 東京都千代田区霞ヶ関 1-2-1  
電話：03-3502-8111 (内線 7375、7376)、直通電話：03-3501-5098、ファックス：03-3592-0759  
電子メール：yuusuke\_satoh@nm.maff.go.jp  
独立行政法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所 業務推進部  
〒951-8121 新潟市水道町 1 丁目 5939-22  
電話：025-228-0451 (0616)、ファックス：025-224-0950、電子メール：fra-jki@ml.affrc.go.jp

## 参 画 機 関

北海道立中央水産試験場	京都府立海洋センター
青森県水産総合研究センター	兵庫県但馬水産技術センター
秋田県水産振興センター	鳥取県水産試験場
山形県水産試験場	島根県水産試験場
新潟県水産海洋研究所	山口県水産研究センター
富山県水産試験場	社団法人 漁業情報サービスセンター
石川県水産総合センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
福井県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所

# 平成18年度第1回日本海海況予報

## 1. 今後の見通し(2006年4月～6月)

- (1) 隠岐諸島北方及び大和堆沖の暖水域は、一つにまとまって停滞する。  
丹後半島沖の暖水域は、北東に移動した後、能登半島沖の暖水域と一つにまとまって停滞する。  
佐渡島沖の暖水域は、北東に移動する。  
男鹿半島沖の暖水域は、北上した後消滅する。
- (2) 島根沖、佐渡島沖及び入道埼沖の冷水域の張り出しは、平年並み。  
山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、やや強い。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、"平年並み"で経過する。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも"平年並み"で経過する。

## 2. 経過(2005年11月～2006年2月)

- (1) 11月に能登半島北西でみられた暖水域は、東へ移動。  
11月に能登半島沖でみられた暖水域は、東～北東へ移動。  
11月に佐渡島北方でみられた暖水域は、しばらく停滞した後消滅。  
11月に男鹿半島沖でみられた暖水域は、北へ移動した後消滅。  
11月に隠岐諸島北方で暖水域を確認(12～2月は不明)。2月に金沢沖で暖水域を確認。
- (2) 島根沖及び山陰・若狭沖の冷水域は、大きくて接岸。佐渡沖の冷水域は、規模は平年並みで接岸。入道埼沖の冷水域は、規模及び接岸状況とも平年並み(11月)。
- (3) 対馬暖流域の表面水温  
11月：ほぼ全域で"平年並み"～"やや高め"となり 隠岐諸島北西、能登半島西方及び佐渡島北西では"かなり高め"の海域が分布。  
12月：男鹿半島西方では"かなり低め"の海域が分布するが、それ以外は"平年並み"～"やや高め"となり 隠岐諸島周辺では"かなり高め"～"はなはだ高め"。  
2月："平年並み"～"やや低め"となり "かなり低め"の海域も広範囲に分布。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも"平年並み"(10～12月平均)。

## 3. 現況(2006年3月)

- (1) 暖水域は、隠岐諸島北方、大和堆沖、丹後半島沖、能登半島沖、佐渡島沖及び男鹿半島沖に分布。
- (2) 島根沖、佐渡島沖及び入道埼沖の冷水域は、規模及び接岸状況とも平年並み。山陰・若狭沖及び入道埼沖の冷水域は、大きくて接岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、"平年並み"～"やや低め"で、隠岐諸島北方では"かなり低め"の海域が分布。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも"平年並み"(1～3月平均)。

(註) 引用符( " " )で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

"はなはだ高め"：約20年以上に1回の出現確率である2 程度の高さ

"かなり高め"：約10年に1回の出現確率である1.5 程度の高さ

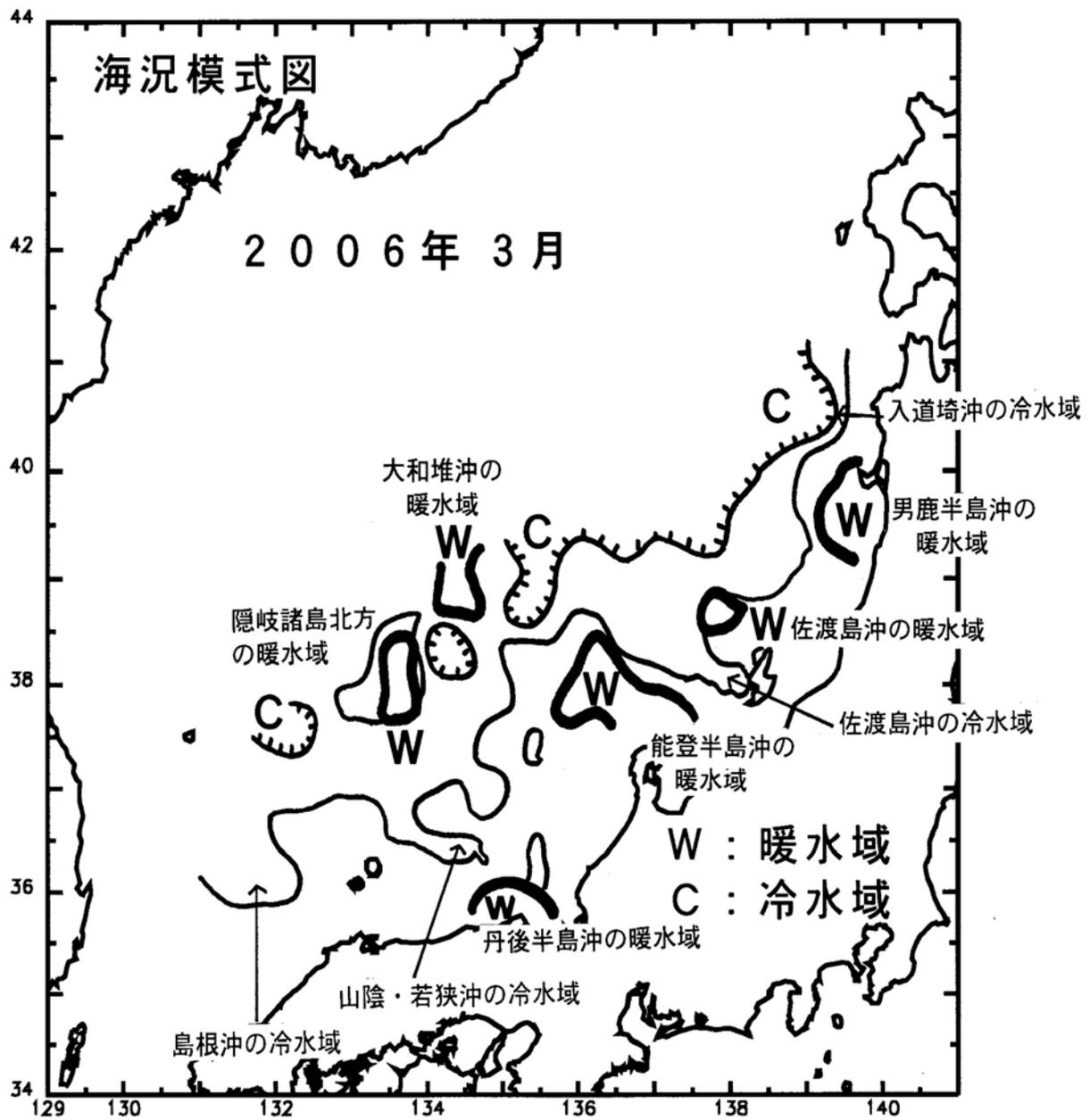
"やや高め"：約4年に1回の出現確率である1 程度の高さ

"平年並み"：約2年に1回の出現確率で、平年値±0.5 程度の水温

"やや低め"：約4年に1回の出現確率である1 程度の低さ

"かなり低め"：約10年に1回の出現確率である1.5 程度の低さ

"はなはだ低め"：約20年以上に1回の出現確率である2 程度の低さ



2006年3月の海況模式図